

総括・挨拶

時任 宣博（京都大学理事・副学長）



皆さん、朝10時から夕方5時まで、長丁場のシンポジウムへのご参加、ご苦労さまでした。今朝の開会挨拶で、総長も申し上げましたけれど、この京都大学附置研究所・センターシンポジウムは、2年越しのリベンジの開催でした。昨年予定しておりましたシンポジウムも、ぎりぎりまで現地での開催を期待しておりました。そのとき、私は基盤長の立場でしたが、今回も引き続き開催担当研究所長をお務めの霊長類研究所の湯本先生と、やるか、やらないかということをしごく考えて悩んでいたのですが、やはり全国的にコロナ感染者数が増えたところだったので、開催地の熊本に迷惑をかけてはいけないということで、残念ながら中止とさせていただきます。

今回のシンポジウムは、去年のものから副題も少し変えまして、いざとなったらもう完全オンライン開催を覚悟してということで準備をしていただいたのですが、熊本はいち早く割と収まっておりまして、京都も何とか緊急事態宣言が解除されましたので、ハイブリッド形式でいこうということで本日の開催を決定いたしました。その結果、総長以下いつもよりは本学関係者の参加が少ないのですが、この会場において頂いた皆さんと対面で、この附置研究所・センターシンポジウムを熊本で開催できました。非常にうれしく思っています。

今日のシンポジウムをお聞きになってお分かりのように、京都大学は非常に幅が広くて、奥が深いと言えれば聞こえがいいのですが、好き勝手なことをみんなで楽しく研究しております。こういう京都大学における自由な研生活の結果が、少しでも次世代のためまた世の中のためにつながるように、それぞれの研究に邁進したいと思っておりますので、今後ともご理解とご支援のほど、よろしくお願いいたします。